

3・9全国統一行動

札幌で終日行動を展開

全国統一行動日の3月9日、札幌では早朝の全医労のストライキ支援行動をはじめ、夜の札幌地区労連主催の「つながる春闘札幌集会」など終日行動が展開されました。

鉄道本部が独自宣伝行動・集会で発言

北海道鉄道本部は、JR西日本の京都電車区でストライキに入った組合員への連帯と春闘要求実現をめざして独自行動にとりくみました。午前10時、北海道労働センターに12名の組合員が集まり春闘でのJR北海道との団体交渉について経過報告を受けたあと、春闘ビラ配布をおこないました。夜に開催された集会にも参加し、加藤副委員長が春闘の取り組みとこの日の行動内容を報告しました。

また、夜の集会には「明るい札幌市政をつくる会」から市長選挙に出馬表明している木幡秀男さんが出席し、各職場からの物価高に対抗する賃金引上げ春闘の取り組みや人手不足によって疲弊している職場の現状報告に耳を傾けました。司会者から職場の代表に「木幡市長が誕生した際に実現してほしい要求は」との質問もあり、鉄道本部からは春闘で会社にも求めている札幌市敬老パスのJR利用について「年金者組合の先輩たちからも要求が出されており、JR北海道の増収にもつながるので実現してほしい」と発言しました。木幡市長候補は「JRのキタカで地下鉄に乗れるのでシステムの改善をおこなえば可能なことで、実現はやる気の問題だ」とキッパリと答えてくれました。

回答指定日・JR北海道と事務折衝

3月8日の回答指定日に、JR北海道は賃金に関する回答を検討中として有額回答を示すことはできず、北海道鉄道本部は事務折衝として交渉の場を設けました。

会社から検討状況についての説明を受けたうえで、建交労からは物価高騰が続く中で社員と家族の生活を守る責任は会社であり、日頃から社員の奮闘に謝辞を述べるが言葉だけでは誰一人納得していないことを述べました。そして「エルダー社員の労働力をなくして列車の安全安定輸送は出来ないことは労使の認識が一致しており、雇用延長を理由に奪われた諸手当の支払いを復活させること、労働力に見合った賃金の支払いで会社への信頼回復につながる」「毎年10月に最低賃金が改訂されるがその度に賃金改定をおこなうことは社員が会社の経営に不安感を抱かせるもので、若年退職に歯止めを掛けるためにもエルダー社員への待遇改善は急がれる」との考えを示してきました。また、3月2日の国土交通省交渉の場でも、昨年21年ぶりにJR北海道がベアを実施したことは若年退職を減少させる対策の一つとして認知されており、今後の発展的な経営計画の作成に国は期待を寄せており、チャレンジする施策には背中を押すといった姿勢を感じ取れるものだったと伝え、週明けに持ち越される回答は社員と家族が安心して暮らせる賃金引き上げで会社の未来が拓かれる決断となるものと期待を述べて事務折衝を終えました。

各職場組織の春闘・一時金要求と回答・妥結状況をお知らせください